

5C18 回目キングダムセミナー20260613

賛美:

11 番、魂のわざ離れ

7 番、 今、目覚める者よ

12 番、主の祝された命のことば

15 番、心静かに主の御言葉を待つ

前半:15:45.27

6 月のキングダムセミナーを始めていきましょう。

今は、本で言うと 91 ページのパート 4 の【**関係である神の国**】のところなんですけれど、パート 4 に入って何回やっていることか・・・なぜならば、ここが、キングダムセミナーの中心あたりになるからです。けど、ここに至るまでに、このパート 4 を深く理解するための大切な基礎があります。なので、今、それをやってきています。

これまでは、本の通りをやっていた時もありましたが、その頃はスーッと通り過ぎる箇所だったんですけれど、なぜか第 5 クール目に入って、もっと話したくなりまして、本のパート 4 には書いてないことも、話してきます。で、今日は、94 ページの【**王権による関係**】、今、ここなんです。パート 4 も、あと 1、2 回で次のテーマに進もうと思っているんですけれど、この【**王権による関係**】というところを、これまでより深く、熱く、受け取ろうというところです。17:48.60

それで、今日はどういうところから踏み込んで進めようかと思ひまして・・・前々回に、創世紀 1 章の 26 節、27 節あたりのヘブライ語と日本語の対訳のプリントを配りましたよね。ラインの皆さんはラインにそれが入っているかと思ひますので、それをもう一度見てください。そこから、話をより深めていきたいと思っています。会場の方は、前のプリントが、・・・皆さん、ありますね。「いや～、また難しいヘブライ語かぁ」と思わないでくださいね。私たちの日本語の聖書も何語の聖書も全部この原文から訳されてできていますからね。

で、前回、大まかに説明しましたが、今日は、まだ言ってないところの続きをちょっと話して、そして今日の深みにしていきたいと思ひます。 19:42.57

ミルトスから出ている対訳聖書をお持ちの方は、創世紀の 1 章の 26 節あたりになります。なんか難しいヘブライ語を今からコツコツと勉強しようというわけではありません。どうぞ気持ちを楽にしてくださいね。セミナーが始まったばかりで、まだ気力がみなぎっているうちに、先に見ていきたいと思ひます。

それでは、プリントの 26 節を見て下さい。私が四角く囲っているところです。そこに、ヘブライ語の読み方がカタカナで書いてあって、その下に日本語で意味が書いてあります。それからその下に、色々と、なんかわけの分からないことが書かれていますが、それはその単語についての説明です。なので、今はまあ、いいとして、カタカナの方を見て下さい。21:03.57

「ヴァーヨーメルエロヒーム、ナアセーアダム、ベツアルメーヌー、キドゥムテーヌー、ヴェ、イルドゥー」
こういうふうに、カタカナで読むと、難しく、ガッチリ書いてあるようなイメージがありますよね。日本語訳も

5C18 回目キングダムセミナー20260613

【そして、神様が言った。わたしたちは造ろう。人を。わたしたちの像に。わたしたちの似姿に。そして彼らは、治める。】と、なんか、神様が厳しく、上から冷徹に、『わたし達は造ろう』と言って、『彼らはこうするんだ』というイメージがあるけど、皆さんはここをどう受け取ってこられましたか？そんなイメージでしたか？ここを、自分の受け皿で、初めにどういうふうに受け取ってきたか、ここ、大事なんですよ。 22:18.31

前回言いましたことを、思い出してください。神様の願望と希望、熱意というのが神様の気持ちに現れています。それがどこで解るかという、・・・これ一語、一語を読んでいって、この原文を読み込んで慣れていったら、わかってくる。厳しく冷徹に言い放っているのじゃないんですよ、これってね。

もうご存知の方は、ご存知だと思いますが、(朗唱)・・・こういうふうに、メロディーをつけて歌って読みなさいと書いてあるんです。どこに？と、思うかもしれませんが、いっぱい髭みたいなのがついてたり、点々がついてますでしょ。それが、朗唱記号なんです。 (朗唱)・・・もう、語りかけるように諭すように、間をおきながら、神様の息づかいがそこに書いてあるんです。 (朗唱)

で、もうちょっと突っ込んで簡単に言うと、【わたしたちは造ろう】と書いてある。この『わたしたち』というのは誰のことですか？いろんな人がいろんな解釈をしています。それが下線の欄外の 26 というところを書いてあります。それを見て、あなたがどれを取るかというのは、それはあなたの自由なんです。それで、父・子・御霊の『わたしたち』なんだろうとか、・・・色々思っただけなんです。 25:00.91

でもね、プリントの 27 節の下の方角に囲ってあるところを見てください。ヴァイヴラー、【そして、創造した】と書いてある。ここにも『創造した』と書いてあって、同じ『造る』という言葉なんだけど、26 節は、【ナアセー】という言葉を使っている、27 節の【バーラー】と違う言葉を使っているんです。

それがどう違うか？という、

26 節の【わたしたちは造ろう】という『わたしたち』は、これは神様だけが主語になるんじゃないくて、人間も主語になる言葉『造る』という【ナアセー】なんです。だけど 27 節の【バーラー】(造ろう)という言葉は神様しか主語にならない言葉なんです。そういう、使い分けがしてあるんです。父・子・聖霊の神様だけなら【バーラー】でよいのだけど。

じゃあ、なぜ、26 節は、神様だけが主語じゃない言葉、【ナアセー(造ろう)】を使っているのか？

誰を含めて主語にしてもいいという【ナアセー(造ろう)】にしているんでしょうか？

ここに、そういう疑問と深みがあるわけなんです。 26:48.44

ということは、【わたしたちは、造ろう】という、この【造ろう】は、これから造られるアダムを、もうすでに神様は思いの中で、アダムも含めて『わたしたち』にしているのではないか。そして、アダムと一緒に、【アダムが『造ろう』】と、言っているのではないかと。え？そんなこと言えるんですか？と思うかもしれないけれど、この言葉に含まれている言い方、息遣い、思い、言葉の使い方の中に、それがあるわけなんです。 27:38.74

5C18 回目キングダムセミナー20260613

だから、アダムも造られるのだけど、アダム自身が、アダムも自分で自分を造ることに自発的に、意思表示して協力しなければ、・・・つまり、『アダムも神と共に自分を造ろうとしなければ、造れませんよ』という、それが神様の願望と希望の熱い思いなのです。 28:36.55

だから、今、『(私という)人』が『神の像に成長していく』というのは、神様が勝手に私たちを、こちょこちょといじくり回して造るんじゃないんですよ。私たち『自身』が、『神の像に』造ろうとしないと始まらない。そうやって、我々は造り築き上げられていくのです。

で、前々回(16 回目)、ヨブの話をしたあの時だと思いますが、その時にも言いましたように、[わたしたちは人を造ろう]と言われた後、[わたしたちの像に]という言葉ともう一つ、[わたしたちの 似姿に]という言葉が、二つ並べられているわけですが、これ、意味なく、二つ重ねられているのではないんです。

『神様の像』というのは、**『神様の支配』**を現すんです。

どっかで見たことがあるかも知れませんが、中東で、・・・まあ、これは偶像の神ですけど、大きな石像や飾りをつけたものをドーンと荒野の真ん中に置くんです。これは何を現しているかということ、この地は、この神の支配があるんだぞという印。それが『神の像』と言われていた。そういう時代が長かったわけですよ。

で、神様は目に見えないし、実際に像があるわけではないんだけど、ここで、[わたしたちの像に]ということは、『神様の支配・主権・力』 そういうものを現すものとして、『人を造ろう』と言われたんです。・・・なんて、すごいことでしょう。 31:16.62

[わたしたちの 似姿に] キドゥムテーヌという言葉、これは、神の像の中から溢れてくる姿。周りに解き放たれる姿。それは、『神の愛』『神の義』であり、『神様の栄光』、そういう、いわゆる新約で言えば、聖霊の実のことです。『愛・喜び・平安』そういうものが溢れるように造ろう』と言っているわけです。

このように、神様の『意志』を告白している。『願望』を告白している。そして彼らは『治める』と言われているわけです。

ここでちょっと、左の縦書きの日本語訳の 26 節を見てください。これ、新共同訳ですけど、[神は言われた。『我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう』]と書いてあります。・・・[我々にかたどり、我々に似せて]というこの言い方は、日本の言葉に分かりやすいように流れるように書いてある。でも、ベツアルメーヌ(わたしたちの像に)と、キドゥムテーヌ(わたしたちの似姿に)を丁寧に、一個一個取り扱って訳しているという感じではない。

5C18 回目キングダムセミナー20260613

「そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう」と言っています。海の魚と空の鳥と家畜と地の獣、地を這うすべての、そして全地を支配するって、これって、どうやって支配するの？海の魚を支配すると言ったって、泳いで行ったらわかんなくなるよね。空の鳥を支配するって、飛んでいったら追っかけられないよね。まあ、単純に言ったらそういうことです。家畜はわかりますけどね。でもこの大地の上に動いている動物たちをもって言ったら、・・・そのように表現するという言い方が、この書き方自体が、以前に言いました啓示文書の書き方なんです。

これ、理科的なものとして読んだら、本当に海の魚・空の鳥・家畜ですよ。けど、海の魚、空の鳥、家畜、これらのものは何を指して言っているのか？それだけじゃないよね。地の上を這うものすべてですよ。で、これはこういう生き物たち、うじゃうじゃといるものが描写されていることに、何の意味があるのか？『治める』というのはどういう意味なのか？ということが、ここで考えさせられるわけです。36:00.06

その後、3章のところで、蛇が出てきます。「あらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった」（創世記 3：1）という蛇が、後に、「おまえは、一生腹ばいで歩き・・・」（創世記 3：14）と言われました。ということは、『神の像』と『神の似姿』を持って造られた人が、『治める』、『管理する』、あるいは『世話をする』、そういうものは、この地上にいっぱいある。それは物質的なものだけど、3章のそれからすれば、「霊的な、目に見えないもの、そういうものも含めていますよ」ということです。37:32.69

だけど、翻訳の方はどうですか？

この 26 節の最後に、[地を這うすべてのものを支配させよう]と言っています。「神様が、人を使って支配させるのだ」という、こういうニュアンスで訳していますよね。でも、26 節の原文を見てください。『支配させよう』と訳された 26 節の下の方の「ヴェイルドゥー」という言葉は、[彼らは治める]という言葉からきているのです。『支配させよう』というのとは、ちょっとニュアンスが、違うと思いませんか。原文のヴェイルドゥーの下に書いてある訳、[そして彼らは治める]という方が原語に忠実です。

「人が、治めてゆきます」と言っているわけ。神様が人を使って、何かをさせるのだというニュアンスでは、言っていないです。「これから、彼らはそれを、治めていきます。」という気持ち、それを [支配させよう]と訳すのは、訳す人の気持ちがちょっと込められているのです。39:42.23

そして、更に 27 節を見てください。「ヴァイブラー エロヒーム」と書いてある。今度は、「ナアセー」を使わないで、「神様が自分の主権を持って創造するのだ」と言う語りにしているのです。つまり、「その内側は「ナアセー」だけど、でも、全部それを造る責任をちゃんと持ってくださいるのは神様だと、そういうことです。40:25.56

ここで、27 節をちょっとよく見てください。「神は創造した人」を 「ベツアルモー」と書いてある。「自分の像に」と訳してある。この前、言ったような気がするのですが、ここでちょっと、もう一度、はっきり見ていきましょう。難しいことを言うつもりはないのですが、大切なところなのでちょっと、これだけは・・・。

「ベツアルモー」という言葉の最後に 「モー」という言葉がついたら、初めの名詞（像）を誰の誰かというのを否定するというのがあるわけなのです。41:55.26

5C18 回目キングダムセミナー20260613

だから、ここをきっちり訳したら、「ベツアルモー」は、『彼（アダム自身）の像に』という意味なんです。
 どういうことか、というと 「人を 彼（自身）の像に、神は創造した」と、皆さんが聞いたら、「あ、その『彼（自分）』って、神様のことですね」と、まあ、そう思いますよね。けど、その後に、「ベツェレム エロヒーム、バラー」、「神の像に 彼を創造した」と、また言っていますよね。

「ということは、上の段のこの「モー」のついてる初めの名詞「彼（自身）の像に」は、「神自身の像に」ではなくて、「アダム自身の像に」とも言えるということです。

この『彼』はアダムのことかもしれないし、神様かもしれない・・・ということなんです。
 この翻訳では、「ベツァーモー」を、「神は創造した。自分の像に」と訳すということは、この『彼』は『神様』だと受け取ったのです。ところが、「モー」がついているので、この「彼」が『アダム自身』だとしたら、神様は『アダムの像に』、『彼（アダム）の似姿に』、『彼（アダム）を造った』ということです。43:55.02

つまり、神様が造ったのは、十把一絡げの工場で、機械がパカパカ同じものを造るそういう『造る』ではなくて、「神様は、アダムにはアダム、この人にはこの人のように、『彼の固有な神の像』に造ろうとしたのだということです。」我々は、みんな違うでしょう。みんなそれぞれの『神の像』。工場のベルトコンベヤで出てくるような『神の像』じゃないわけよ。

「神の像」には、ものすごく多様性がある、それがみんな『神の像』なんです。
 そのようにも読めるということです。どっちで読んでもいいんですよ。原文はその幅を持っているのです。だから、あなたが「いや、私は神の像でいいわ」と言ったら、『神の像』です。アダムのことだと言ったら、『アダムの像』です。44:51.72

で、最後、「それを男性と女性とに、彼らを創造した」・・・神様は、男も女も、何の差別もありません。最初からです。全くありません。ここに書いてある通りです。だけど、後の時代に差別だの、それが秩序だの、なんだかんだで、「男はこうだ。女はこうだ。女はこうでなければならない。」とか、いろいろと言われ始めるわけでしょう。それは人間の世界の歪みのゆえですよ。その歪みの中で、弱い立場に置かれたものを、神様は其中で、守ろうとされます。

だから、「神様にとって、『神の像』に男も女も変わりはないんだけど、歴史の中で、その歪みで苦しめられ、弱い立場にさせられた人たちを助け、守りたいという、そこに、今度、神様の共同体を守るための神の秩序と覆いという存在がそこに必要になってきたんです。」だからといって、覆われているという人は、もう弱くてどうしようもなくってという・・・そういう存在だと言って卑屈になる必要はないんですよ。「歴史上のその中で、受けるべき覆いは大いに受けるものです。もちろんです。そこで、『神の像』を発揮していけるんです。発揮していけばよいのです。」47:17.28

それでも一つ、大切なところをこの中で言います。見ていて、見つけた人いますか？あのね、**26 節は神様の『決心』を告白しました。27 節で『実際に』創造しました。**

なんか違うところがありませんか？ 27 節、朗唱。このように、神様は語りかけて、成したのだけれど、26 節はどうですか？皆さん。[わたしたちの『像に』わたしたちの『似姿に]]と書いてある。この通り造りましたか？ **27 節**には、『似姿』はないですね。 なんで？ ここで [神の像を造った] ということは確かです。

でも神様の語りの中で、[わたしたちの似姿] が添えられていない。神様が、似姿を『造ろう』と言っているのだから、お造りになります。でも、この最初の神が造られた作業の中で、それは書かれていない。欠落している。あるいは、強調してないのかもしれない。そしたら、後々ゆっくり造られていくものなんですか？ 男と女に造って、神の像に創造したこの『神の像』の中に、もう神の似姿は吸収されているんですか？ いろんな思いが湧いてきます。

神様は人を造られた後、これを見て『(はなはだ) 良かった』と、言っておられます。これは、人が『**完全な神の像と似姿に、完成した**』ということではなくて、神の像と似姿に**成熟していくための『初めの姿』が出来たから、それが、はなはだ良かったのです。**

あのね、アダムが『神の像』に造られたと言っても、神様が造ったその時に、すでに『完璧な神の像』だったんですか？ 造られたらすぐ、もうピシッと全てを治めることができる手腕のあるものだったと思いますか？ **案外、このところをぶっ飛ばして、創世記を読みます。**

1 章で人が造られて、2 章で、そのプロセスを細やかに描写しています。そこを見ていくと、アダムが『神の像』と『神の似姿』に、やっぱり造られていたんだと思わせるところがありますか？

神様がアダムをチリから造られて、命の息を吹き込まれて、園に置かれて、木の実の命令を与えられている。けれども、それまでの創世紀の 1 章の造られた者の『応答』というものが、そこに見えたか？という、ないんです。**アダムは、一言も神様に応答していません。主体的な応答はなくて、置かれたこと、命じられていることを、そのまま受け取るのみです。**で、唯一アダムが口を開くのは、女を見て喜んだところ。そして名前をつけたその言葉だけです。

もしアダムが、しっかり応答する『**主体的な**』治めるという気持ちがあって、それができる人だったらどうなのか？ 蛇が女を誘惑しているその場に、原文では、そばにいたことが書いてある。でも、アダムは、蛇にも女にも何一つ発言しないで沈黙している。女から渡された実をなんの疑問もなく口にします。**『アダムの沈黙』**と言って、これ、昔からもう大問題の議論的なのです。55:19.20

もし、アダムがしっかりした『**大人の像**』であり、『**大人の神の似姿**』で在るならば、・・・あれば、ですよ。**『治める』この意志が満々なはずなのですよ。**完全な大人だったら、ね。この沈黙ってどうですか？皆さん。この沈黙って、『神への無関心』か？もっとひどく言えば、『神への故意の、悪意に満ちた意図的な、蛇の側に

5C18 回目キングダムセミナー20260613

立った共犯』？・・・そこまで言うかってね。だって、そう解釈されてきたんじゃないですか？蛇が、神様の命令を破るよう誘惑したら、二人は簡単にそっちに乗っかって、神の命令に従わなかったんですよね。

しかしながら、原文が描写している『初めに造られたアダムの姿』は、『大人の神の似姿』ではなくて、状況が理解できず、ただ立ち尽くし、手渡されたものをそのまま口に入れてしまうという『未成熟な姿』だったのではないのでしょうか。

アダムが完璧な大人で、もう成熟した人であって、それがあえて蛇の誘惑に応じたのだとしたら、もうそこが、人間の決定的な罪、失敗だと・・・だから、その人間を救わなければならないんだという、・・・こういう福音の原点ですか？どうでしょう。このように、読み方は二通りあります。

でも、木の実を食べた後の神様のアダムとエヴァへの対応は、どうですか？対応はどんな感じですか？
神様はアダムをエデンの園から【追い出した】と書いてあるのだけど、・・・このセミナーのずっと初めに言いましたけれど、『追い出す』とともに、言語では実は、『送り出す』『遣わす』という意味の言葉も使われているのです。単に、「お前なんか出て行け。もう帰ってくるな」バツカーンという、そういうものではないのです。
ですから、ここは、神様の怒りと処罰というよりも、二人への『配慮』なんです。 59:24.78

3章の最後、あの事件から、蛇と女と男に 三者に語った神様の言葉にあるのは、『人の王権の回復』と邪魔されてはいるが、引き続き人にある『神の像』についての言及です。

【女の末がお前の頭を砕くから】という、蛇へのその言葉を皮切りに、中心に、あと女への言葉、男への言葉が続いているのです。ですから、『罪』という言葉は、3章までにはないんです。4章になってやっと『罪』という言葉が出てくる。カインに対して【・・・罪は戸口で待ち伏せしてあなたを恋い慕っている。だから、あなたはそれを治めることができる】(4:7) と言っているのです。ここで分かるように、『神の像』の権能がまだカインにあるということを、神様は認めているのです。もう根っこから腐って、腐り切ってしまうような人間たちなんだったら、「蹴り出せ」というような怒りと処罰の対応になったのではありませんか。だから、初めのアダムの挫折の後、人に残っている『神の像』として、神様は認めているんです。

また、創世紀の9章ノアの箱舟のときに、神様が言われた言葉、9章4節に、【・・・いのちである血のあるままで食べてはならない】と言って、洪水後の食べ物のことを言っているのだけど、そこでも、9章6節【神は人を神のかたちにお造りになったから】と書いてある。これ、ノアの大洪水の後ですよ。その後でもそう言っているわけです。ここでも、『神の像』の権能がまだあるということを、神様は認めているのです 1:02.14.52

それから新約聖書で、ヤコブ3章9節に【私たちは、舌をもって、(主であり父である方をほめたたえ、同じ舌をもって)、神にかたどって造られた人をのろいます】と書いてある。・・・墮落した、罪を犯して罪人になったと言われた人間たちを、神様はまだ『神の像』を内に持つものとして見ているのです。

5C18 回目キングダムセミナー20260613

これが『初めのアダム』と『第二のアダム』二人に対して、あるいは後の人類に対する神の目線であり、『配慮』なんです。

幼い時から心に悪があるということは、それは、神様は承知の上ですよ。承知の上で、それでも残りの『神の像』に期待しているんです。だから、初めのアダムの失敗をもう一度初めからやり遂げる、失敗を回復させる『第二のアダム』を送られたんです。アダムの末の中に、第二のアダムを。

そうでなかったら、女の末なんか通さなくてもいいんです。もうお前たちどっかその辺の隅っこで、じっとしておれと。神様が「もう一度新しいアダム造るからな」と言って造ればその方が早いけど、神様は造られたアダムの内にある『神の像』と『神の似姿』に期待しているんです。それはもうサタンによって曇らされているけれど、邪魔されてはいるけれど、人たちの中に期待されているのです。 1:04:29.88

だからその中に、アベルもいたし、セツもいたし、エノクもいたし、そしてノアもいたわけよ。で、アブラハムもいたわけでしょ。でも、神が選んだその人たちも完全な人じゃない。もう、ぐでんぐでんの失敗だらけが、いっぱいあります。そうですよね。で、私たちもそう。

アダムが挫折したこの世界を、『主体』となって神と共に『治める』、『造る』。この神の国を『ラアソートする』[造るために]。(創世記 2:3)そして、築き上げていくそのパートナーとなることの回復を願い、神様は『第二のアダムである女の末(イエス様)によって、成し遂げるぞ』ということをし、初めから宣言しているわけです。これって、大きな中心ストーリーです。

でもお分かりですよね。その中心ストーリーの父の心を知って、第二のアダムとして、やってきたイエス様は同じように、『父の心を宣言した』んです。それがイエス様の発声の目的です。第一、発声の『(神の) 時が満ち、神の国は近づいた』(マルコ 1:15) と。・・・『方向性を変えて、福音を信ぜよ』と、宣言しました。 1:06:43.26

で、ちょっと手元に皆さん聖書があれば開いてください。ルカによる福音書の 22 章の 29 節 [わたしの父がわたしに王権を与えてくださったように、わたしもあなたがたに王権を与えます]・・・この [王権] という言葉って、聖書の中であまり耳慣れていない言葉ではありませんか？

けど、この『王権』という言葉が、[バッシレイヤー]と言って、[王国]というふうにも訳される。そして、[バッシュレイヤートゥーセウー]と言われると、[神の王国]となるわけです。だから、ここは [わたしの父がわたしに神の王国を与えてくださったように、私もあなたがたに神の王国を与えます]となります。イエス様が断言しているわけです。 1:08:28.85

そこで皆さん、次の節を見てください。ルカ 22:30 節 [それであなたがたは、わたしの国でわたしの食卓に着いて食事をし、王座について、イスラエルの十二の部族をさばくのです]・・・ここを見ると、次の質問が思い浮

5C18 回目キングダムセミナー20260613

かぶと思います。「え？ということとは、これはやっぱりイスラエルの話でしょう」って。「私たち異邦人の話ではないのでは？」という、・・・半分そんな気がしてきませんか。ねえ。まあ、ちょっと・・・この 30 節の件は、後でまた触れますね。

その前に、22 章を今開いているから、29 節の前がどういう文脈かどうかというのを先に見てみましょう。これがちょっと、あの笑っちゃうというか、・・・ 24 節を見てください。「また、彼らの間には、この中でだれが一番偉いだろうかという論議も起こった」と。なんてこった。25-28 節 「すると、イエスは彼らに言われた。『異邦人の王たちは、人々を支配し、また人々の上に権威を持つ者は守護者と呼ばれています。だが、あなたがたはそれではいけません。あなたがたの間で一番偉い人は一番年の若い者のようになりなさい。また、治める人は仕える人のようでありなさい。食卓に着く人と給仕する者と、どちらが偉いでしょう。むろん、食卓に着く人でしょう。しかしわたしは、あなたがたのうちにあって給仕する者のようにしています。けれども、あなたがたこそ、わたしのさまざまな試練の時にも、わたしについて来てくれた人たちです。』」この後で、29 節、「わたしの父がわたしに王権を与えてくださったように、わたしもあなたがたに王権を与えます」と言っているんです。

どうですか？この文脈。1:11:32.22

・・・もちろん、はっきり言えることは、この『王権』というのは何か？というと、人の上に立って見下して、そして周りに命令ばかりして・・・と、そういう支配のことを言ってるんじゃないよね。『神様の像』と『神の似姿』というのは、人々に膝まずいて身を低くして奉仕する者のことだよと。そういう『権能』が『王権』なんだよという、父なる神の熱い願望と希望・熱意を表しているわけです。ですよ。

で、もう一つ、ここで引っかかるのは、「わたしのさまざまな試練の時にも、わたしについて来てくれた人たちです。あなたがたは・・・」と言ってるんです。それね、イエス様がここに至るまでには、様々な迫害があったわけですよ。本当に歩くのも辛い、イエス様を捕えて殺そうとする人たちが待ち構えていた。そんな中をくぐり抜けながらここまで来たわけですよ。だから弟子たちもそれをよくわかっている。1:13:06.47

だけど、ですよ。イエス様が十字架の時に弟子たちはみんな逃げ去ったじゃないですか。それはどうなのよと。イエス様はそんな、そこまでの弟子たちであることを分かった上で、「わたしのさまざまな試練の時にも、わたしについて来てくれた人たちです。あなたがたは」と言っている。

それは、(創世記 6:5-6 で) 「地上に人の悪が増大し、・・・心を痛められた」 そんな神様であったけれど、虹の契約をして、神様は人々を祝福した (創世記 9:1, 13) のと同じです。神様の気持ちは、初めから何も変わっていません。 1:13:58.14

神様が一番大切にするのは、今、共に歩き始めているというこの『初めの第一歩』です。そこから完成していきます。 これからいろんな挫折がありながらもです。

この『王権を与える』という言葉には、「はい、オッケー。今日のこの日から完全にあなたがたはもう大勝利ですよ」と言って、「勝ちっぱなしですよ」ということを言っているのではないんです。『これから王権を与えますよ』ということです。1:14:50.70

5C18 回目キングダムセミナー20260613

だから、**30 節の「王座に着いて、イスラエルの十二部族をさばくのです」**というこの表現も、たちまち終末の再臨のその時にぶっ飛んで、「そうなるんですよ」と言っているのではない。これをしっかり受け止めてください。これが啓示文書の書き方なんです。ここですぐに、「あ、これ、イスラエルに言ってるんだ」と、・・・そこへもっていったのでは、**神様の願望もイエス様の願望も受け取れません**。1:15:33.54

で、次**マタイの 19 章**をもう一度開いてみてください。**マタイの 19 章の 28 節**「そこで、イエスは彼らに言われた。『まことにあなたがたに告げます。世が改まって人の子がその栄光の座に着く時、わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二部族をさばくのです。』」と言っている。・・・「ほらやっぱり」と思いますよね。ところがここで、**わざわざやっぱりそういうふうに読みたい人が翻訳者の中にたくさんいるのです。**

で、ここでよくみると、**「世が改まって」**とわざわざ書いてある。こう読むと、ほら“再臨の後のこと？”とすぐピッピッピッと頭に浮かぶでしょう。だけど、この**「世が改まって」**という言葉は珍しい言葉で、**新約聖書で 2 回しか使われていないんです**。もう一つは、**テトスの 3 章 5 節**に同じように使われているんです。ところが、そこでなんと訳されているかと言うと、**世が「改まる」**というギリシャ語は、**『新生する』**という訳なんです。

テトスの 3 章 5 節を開いて、後でじっくり読んでみてくださいね。**「神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみのゆえに、聖霊による、新生と更新との洗いをもって私たちを救ってくださいました」・・・『新生する』**なんです。

つまり**今、主に向き合って、主との歩みが始まったという救いの始めの第一歩、『新生する』**ということが、その言葉なんです。それをなんで、**「新生する」**という言葉で、ここで**「世が改まる」**という言葉に訳すのかというと、・・・これは本当に議論のあるところです。

ですから、**マタイ 19 章 28 節**を言い換えると、**「・・・主に向き合って信仰の始めの第一歩、新生する時、主がその栄光の座に着く時」**となるのです。1:18:04.02

そして、**「わたしに従ってきたあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二部族をさばくのです」**というここは、・・・あのね、新約聖書のパウロが特に言いたいことはお分かりだと思います。主イエス・キリストの前では、ギリシャ人もなく、ユダヤ人もない。男も女もない。自由人も奴隷もない」ということです。

・・・ここで**「十二部族」**とわざわざ言っていますけど、これは、**全ての神の『集合人格』・『キリストの体』のことを指しているのであって、この時代の啓示文書の特徴的な言い方なのです**。1:10:11.93

この言い方の中で、**「十二部族をあなたがたはさばくのです」**というそれは、十字架と復活と昇天において、新生が始まり、「新しく生まれた民が、これから、継続して完成に向かっていくのだ」という、これからの**『完成までのプロセス』を全部、見据えた『始まりに言う言葉』**なんです。ここで言っていること、分かってくれます？遠い先の終末のその一点がありますよというのではないんです。

今日である今、始まっているのも終末の始まり。必ずこれが続いて完成になっていきます。これが啓示文書の迫力なんです。

5C18 回目キングダムセミナー20260613

だから黙示録というのは、遠い将来のことを言っているんじゃないんです。

黙示録の臨在、黙示録のリアリティは、今もあるんです。ダニエル書のあれも、今もあるんですということ。

黙示文学・啓示文書というのは、将来への年代歴史年表を将来に展開することではありません。そうではないんです。それをしたいなら、できないことはないけど、神様のウェイトはそこにあるんじゃないんです。

主の熱望は、今私たちが生きている『この時』に、ここから『完成に向かっていく』という救いの『動的表現』なんです。エネルギーなダイナミックに動いていく表現なのです。それを理科的にポツ、ポツ、ポツと取っていくということは、今はこうだな、このままいくとあと何十年、何百年、何千年経ったらこうなっていくんだなと・・・そうして、ポンポンポンと置いて、分かりましたと、わかったつもりになるんです。

本当にわかっているんですか？ 神様の動的な神の国のエネルギーがそこにあるのです。だから、我々が『新生した』と言うけど、『救われました』と言うけど、それは生まれたばかりの乳飲み子。幼な子も生まれたんです。けど、幼子のままでいいんですか？子供になり、青年になり、大人になり、そして父となっていくんです。そして神の王権をしっかりと携え使って、治めていくようになるのです。そういうことです。

ここまで、いいですか？今日、大切なラインを創世記の初めからお話しました。

じゃあ、『王権による関係』というのは、相手に対して、一つ、一つどんな『王権の関係』なんですか？というところを後半に話したいと思います。では、休憩しましょう。

後半

さあ、続きを話したいと思います。今日は、前半、聖書を細やかにじっと見ながら話を進めています。ですから、なんか用事をしながら、あるいは動きながら録音でも聞かれる場合はちょっと分かりにくいんじゃないかと思います。ですから、しっかり、ガッツリ座って向き合って、ということが必要だと思いますので、よろしくお願いいたします。0:52.31

前半に (P8)、ルカ 22 章 29 節のところを原文に忠実に、『王権』を『神の王国』に言い換えると [わたしの父がわたしに神の王国を与えてくださったように、わたしもあなたがたに神の王国を与えます]となると話しましたが、クリスチャンたちが『神の王国』を受け取るという、その『神の王国』って、何ですか？というと、『神の国はここにある、あそこにあるとか言えるようなものではなく、あなたがたのただ中にある』(ルカ 17:21)と書いてあるように、『神の王国』とは、実質、『関係性』です。 1:50.28

だから、「我々はイエス様を信じました」で、「その時に永遠の命が与えられました。」「もう天国の命も与えられましたから、はい、私はこれで大丈夫です」と。・・・その『クリスチャンになる』とか『救われる』とかいう構図は間違いではありません。間違いではありませんけど、もったいないところがたくさんあります。

5C18 回目キングダムセミナー20260613

「私たちは悔い改めて、信仰を持って救われました」というのは、この王権によって、治めて成長して、神の国を築いていくという この動線の初めの一步です。見事な始めの一步です。

そこから、我々が神の像と神の似姿に豊かになって治め、仕えていく。そして、築き上げていくということが、大きな『到達ライン』なんです。3:46.86

少し前半の話に引き続きますけど、**第一コリント 6 章 2 節**にはこうあります。「あなたがたは聖徒が世界をさばくようになることを知らないのですか。世界があなたがたによってさばかれるはずなのに、あなたがたはごく小さな事件さえもさばく力がないのですか」 こういうふうに言われています。

それから、啓示文書の真理が詰まった**黙示録 1 章 6 節** 「また、私たちを王国とし、ご自分の父である神のために祭司としてくださった方である・・・」 この 「私たちを王国とし」 という言葉が、「バッシレイアー」 という言葉ですから、こう訳しますよね。でも、こういうふうに聞いたら、もうどうも気分的になんかこう大上段に威張って、強がって周りを抑え込んで支配して・・・という感じを受けませんか？ そういう王国、王権ということに、今現代人の我々はうんざりしてきていますから、その言葉が一緒になるのをちょっと自分でも吹っ切らないといけませんが、「ここは、『神の愛』『神の義』の王権ですから」。6:21.48

それから、**黙示録の一番最後**にこうあります。**22 章 5 節** 「もはや夜がない。神である主が彼らを照らされるので、彼らにはともしびの光も太陽の光もいらない。彼らは永遠に王である」・・・イエス様が**ルカの 22 章 26 節**で言われた『仕えること』、「へりくだり、仕えていくという王権」というのは、これって、すごいでしょう。

もう、「イエス様との『相互内在』にある我々にとっては、イエス様が『完成された王権の姿』の中に、私たちは入っているわけです」。だから、関係性としては、子なるイエス様との関係性、父なる神との関係性、助け主なる聖霊との関係性。これは、セミナーの前半までのところで、もうしっかり話してきました。その 『相互内在の実態』、相互内在のリアリティというものを、しっかり自分の中で根づいていくんです。9：03

そうです。「私はイエス様の十字架の中に共にいました」と。「あの十字架で私が十字架についたのです。」「あのよみがえりの中に、私がよみがえったのです」「天に昇ったのは、私が天に昇ったのです。」・・・もうそれだけで、何を恐れることがありましようや。父なる神の中にイエス様がいます。イエス様の中には私たちがいます。助け主なる聖霊は私たちのうちに来てくださいました。私の外にも内にも、主なる神が満ち溢れています。これをね、しっかりと黙想して立ち上がろうじゃないですか。

私が特にセミナーの中で強調しているのは、助け主なる聖霊という方との歩み、関係性です。「だって聖霊ってわかんないんだもん」とよく言われます。聖霊がわかんなかったら、父なる神様もどうなのよ。聖霊はどう働かれますか？ 聖霊は私たちの内側に働いておられます。11:34.08

次、ピリピ人への手紙を開いてみてください。これ有名なところで、誰もが何回も読んでいるところです。

5C18 回目キングダムセミナー20260613

ペリピ 2 章 6-8 節 [キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。(キリストは) 人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました]・・・これが初めのアダムができなかった神と向き合う、その徹底した『我と汝』の完成なんです。それを完成してくれたこのキリスト・イエスと相互内在になるものは、このキリストの父から与えられていた王権を与えられるのです。13:05.28

だからキリストがキリストだけの王権で終わってしまうことは、初めからありえない。キリストが王権を持ってそれを成し遂げたのは、キリストにつく多くの集合人格の人々が、王権を使いながら、みなキリストのように生きていくためなんです。それは、『仕えるという権威』です。

ペリピ 2 ; 9-11 節 [それゆえ神は、キリストを高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるものすべてがひざをかがめ、すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためなのです]・・・その通りですね。で、次 12 節 [そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であったように、私がいる時だけでなく、私のいない今はなおさら、恐れおののいて、自分の救いを達成に努めなさい。]・・・ほら、あなたがたは信じて救われたから、『永遠の命』ですよと言って、切れてないでしょ。

[キリストは主であると告白して]という初めの一歩をもって「自分の救いを完成させなさい」と言っている。「救い」というのは、『神の国』です。 15:13.30

続きいきますよ。ペリピ 2:13 節 [神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです]・・・これが聖霊の働きです。聖霊は我々の内に来て、朝に昼に夕に、あっちこっち、指さして、いろいろ指図しません。「私、夜中に起こされてこう言われてね」とか、「朝起きたらこう言われてね」って。「昼起きたらこう言われてね」という、その人は、ちょっとよく吟味した方がいい。

我々の魂には、感情と知性と意思の機能があるんです。ということは、私たちの魂には、内側にある私たちの腹の気持ち(感情)、そこに私たちの決心(意志)があるわけよね。だからいつも言うように、聖霊は私たちのところに来て、私たちをこき使いません。私たちを指図して、私たちを支配しません。助け主です。16:04.14

だから、私たちが決めること、思うこと、そういうことを、深い無意識のもっと深いところから、かき立てて、湧き立てて、平安をもたらせ、愛をもたらせ、力を持たせて、助けてくれるわけよ。そうすると、私たちの心が、まあ、言わば、気持ちがしっかり聖霊の思い、神様の思いに触れてシンクロしていくと、我々の腹の中にある聖霊の思いがムクムクっとわき上がって、その人は、あたかも「あ、自分の思いだ」と思いますよ。それでいいんですよ。「あ、そうか」と自分で気づく。開かれていくことがいっぱい出てくる。「あ、そうだ。ああ、そうだ。」「あ、そうか、それならばこうしよう」と、自分で決心するんです。そして、それをやっていくんです。

聖霊は、我々に決して横から突然、命令したり、私たちを指図して、こき使うことはありません。でもね、ごく稀に本当に耳で聞こえたかのように、はっと思って、内側に聖霊の神の言葉がやってくる時もあります。

5C18 回目キングダムセミナー20260613

ありますけど、それは火急な時です。本当に必要なことになった時ですから。

でもね、**ピリピ2章13節**にあるように、**[神はみこころのままに私たちのうちに働いて志を立てさせて事を行わせてくれるのです]**それが、尊いのです。**あくまでも、『あなたの主人はあなた』です。あなたの意志です。**そのあなたの意志でイエス様を主としたのですよ。そのあなたの意志の根を、聖霊はうちにやってきて、私たちの志を助けてくれるんです。

そのためには、我々の知性で聖霊の言葉をいっぱい聞くことがいい。聖霊の思いをいっぱい聞くことがいい。聖書の物語を通して触れることがいいのです。で、周りの人々、兄弟姉妹との**会話の中でいっぱいそういう御霊の思いを自分の耳に慣らしていくのです。**そしたら、自分が馴染んできて、自分の内側の聖霊の思いがもうビンビンと伝わるようになるのです。20:39.48

でも、自分の意志で、自分のこだわった魂的な在り方、こだわった昔からの古い性質、古い癖、古い考え方、そういうものに自分の意志で近づいて掘り起こして、それと仲良くして、それをブイブイ自分でまた語るようになるんだったら、それもあなたの意志でやるから、あなたの自由ですよ。

その時、聖霊はあなたの腹の奥でじっとしてますよ。耐えて聞いてますよ。あなたがそれ止むまで。

でもあなたの心が聖霊の御言葉の思いにまたふわーっと親しくなってシンクロしてきたら、聖霊はその時に、いっぱいあなたの腹に聖霊の思いを醸(かも)し出すようになるわけですよ。

でも時に、魂的な思いどころか、肉の思い、欲望、妬み、怒り、さげすみ、そんな思いに、自分の意志でそっちに近づいていき、それに自分を慣らしていく時があったら、それは、もうあなたのやり放題ですよ。でも、聖霊はじっと耐えておられますよ。だから、**[聖霊を悲しませてはいけない]**と。**(エペソ 4:30)**・・・これは、私たちの大切なポイント。**聖霊を本当に楽しませ、喜ばせる、聖霊を悲しませない。それが聖霊との関係性の大切なポイント**なんです。22:41.34

だから、心がもやもやしてなんだか頭が定まらない時、「そうだ。**聖書の御言葉を声に出して読もう**」と思って読んだり、それから、「あぁ、もうどうしようもなく心が・・・」という時に、**思い切って賛美を歌う。**そうして、自分を治めていく。**自分の肉と魂を治めていくのもあなたですから。**

そして、治めて平静になっていく時、**また、御言葉を読む。**そして**異言を解き放つ。**そういうふうに、**『自分と聖霊との関係性』を、本当に深く認めて大切に**するんです。

聖霊との関係性を治めて、自分の肉と魂を治めて、聖霊との関係性を大切にしていこうということに長けてくると、**感性が豊かになってきます。**それは、自分自身との関係性、**自分との感性**なのだけど、聖霊と関係性を深めていくことによって、**他の人や周りの人との付き合いにおいて、感性が豊かになっていきます。**それによって、**周りの人との関係性が変わってきます。**24：24.84

ここ大切なことです。だから、父なる神とイエス様と相互内在の関係性、内に来てくださった聖霊との関係性によって、私たちは、**『王権を与えられているんだ』**ということをし、「よしよし」と、しっかり、認めましょう。

5C18 回目キングダムセミナー20260613

で、それが身についてくると、身近な関係のある人との関係に現れてきます。初めは、自分が変わってきたものだから、これまでの慣れ親しんだ付き合い方、感じ方、喋り方、そういったものが、自分でもなんかそぐわなくなってくるんです。自分の家族なのに。今までずっと何十年もこういう付き合いをしてきたから、なんか、初めは、ごこちない。**それは、自分の内側の感性が変わってきても、相手は変わってないからです。**みんな、家族は家族。でもなんか違う感性の盛り上がりが自分にあるから、**初め、ごこちない。戸惑いがある場合も出てくる**んです。26:00.60

「そんなん、関係ない、今まで通り肉と魂で、家族とやっちゃえばいいんだ」と言うなら、**それもあなたの道ですよ。けど、感性豊かになりましょう。**御霊とともに、あなたの家族に対して、どう反応するのか・・・というところを一つ一つ治めていく。そこが、私達が魂的であることを打ち破る大きな戦場です。

それから、自分自身の古い魂もそうですが、肉体との関係性もそうです。体の調子、体が変、なんか具合が悪い、病気とまではいかないけれど、未病というやつですよ。病気になる一歩手前の症状を私たちの**体はいっぱい教えてくれる**じゃないですか。それに対して、我々は**まず自分の深みで、自分の御霊とともに自分の体を治めていく使命がある**んです。なぜならば、**体を使ってこそ、いろんな動きができて、活動ができるわけですから、自分の体を王権で治めようとする**ことです。その王権で治めるために、諸々の健康のためのいろんな道具やグッズや薬もありますよ。そういったものを、治めるということの後で、一つの手段として使わなきゃ。ねえ。28:13.32

それと、もう一つ大きな関係性があります。『**サタンと悪霊と諸々の霊力との関係性**』です。このことについては、この本に、私はこのように言っています。《**こういった領域との関係ですが、これも既に多くの真理を私たちは得ています。・・・だから今ここで繰り返す必要はないでしょう。**》と。そうなんです。この時代というか、この頃はそうだったんです。皆さんはどうでしょう。

神との相互内在の中であって、サタンは私たちを見た時にどう見えるのか。はっきり、自認しておいてください。私がよく、**本の中にくちゃくちゃになった紙を挟み込んで、これが『イエスの中にある』**ということだと話していますよね。周りから見たら、綺麗な本しか見えないんです。中身はくちゃくちゃした紙だけど、**イエスの中に入った私たちは外のサタンから見たら『もうイエス様にしか見えません』**ということを、**はっきり、自認し**といてくださいね。

それを自分で振り絞って、**自分の自己認識に変える必要があります。**だからといって、人に対して「俺、イエス様なんだよ」なんて、そりゃダメよ。そりゃダメだけど、そこを言ってるんじゃないよ。サタンにだけは、「私はこうだよ」と言うんです。サタンはイエス様に完全に敗北していますから。

昔、レスター・サムオールというアメリカで悪霊の追い出しにものすごく用いられた教師がいて、その老練な方がもう何十年も前に東京に来られたことがあって、私、関西からその人に会うためにやってきたんです。何泊かしたんです。小さな集会でしたが、その先生の話をして聞いて、いろいろ教えられることができました。

それで、その時の先生の証というのが、・・・「これまで、アメリカのあっちこっちを歩き巡ってとか、もう世界中を歩き巡って言うんだけどね」と。「その国々によって支配している霊が違うんだよ」と。「その国の君

5C18 回目キングダムセミナー20260613

というか、その国を支配している悪霊の僕となって、その国を支配している悪霊の王というか、そういったものが確かに存在する」と。「でも、全部の国が同じカラーではない。だから、日本では大きなクルセイドをしなかったんだ」と言うんです。「それは日本に合った何か方策があるから」と。

でも、アメリカ本国では、もういっぱい悪霊の追い出しをしてきたということで、ある家に悪霊につかれた男性がいて、それを「祈ってくれ」と言って助けを求められて、で、車で駆けつけて、「イエスの御名で出ろ」と言ったら、そしたら静かになったと。「よし、じゃあもう出たから」と、家族はみんな思って、「いや〜、ありがとうございました」と言って送って部屋を出ようとしたら、その男の人がまた「うわーっ」と叫び出したって言うんです。だから「まだ出てなかったんだ」と家族は思ったんです。ところが、レスター・サムオールさんは、ドアから半分体出かけたんだけど、また顔だけふっと入れて言ったんだって。「出ろと言ったろ」と。その一言を言っただけなんですって。そしたらその男は、ベッドの上でシュッと静かになっちゃって。・・・だから「出ろ」と、1回語るだけで十分だったと。でも家族は、また騒いだから、「あ、まだ出てないんだ」と、頭を抱えて、驚いてもうがっかりしたというのです。でもレスター・サムオールさんが、小声で軽く「出ろ」と言っただけで、**悪霊は出ていきましたと。「悪霊というのはこういうものですよ」って。悪霊が出るか出ないかというよりも、要するに、こっちの、『立ち姿』なんだと。“あなたの立ち姿”、“あなたがどこに立っているか”、“あなたの立ち位置がどこにあるか”なんだということです。**それを神様も知っているけど、悪霊はもうビリビリ感じて知っている。

この前、セミナーの中で、私が仕事で空き部屋に入って、「ああ、・・・」と言って、そこに住んでた、もやもやとしたものが、そこにいるということがわかるって言っただけで、何人かの人たちが「えーっ」と言ってびっくりされて、後で聞かれたこともありますよ。

でもね、悪霊と言っても色々あるから。誰かに取り付いて、その人を激しく苦しめている悪霊というものも確かにあるけど、それはしっかりと対応しなければいけませんけど、どちらかというとね、日本の国では、そんな大きな災いをもたらすような、病気をもたらすような悪霊の働きというよりも、もっと浸透していて、もっと強力で人々を抑え込んでいるものがあります。私もそう思うけど、外から来た人、レスター・サムオールさんのような人は特に指摘します。それは何かというと、日本のいわゆる文化・常識・習慣の中に、しっかり密かに浸透して、そこに住んでるものだと。

だから、これ？あれ？と言って、みんな、未信者もクリスチャンでも そんなに気にしないレベルになっていると言うのです。だから、大きく何か事を起こそうとしても、足が沼に浸かっちゃったように、未信者でもクリスチャンでも足が重い。動きが鈍い。そして、気がつかないようにクリスチャンの王権を使わせないように、ダメージを与えている。

「それは、なんですか？」と聞いたら、私はサタンと悪霊という話をよく聞くし、してきましたけど、それ以上に、その諸霊というか、諸々の悪霊ですよ。悪霊という、国を治めたり、街を治めたりするビッグなものじゃなくて、どっちかと言えば、その辺にごたごたいる悪霊のチンピラ。悪霊という名札にも、もったいないような諸々のもやっとしたもの。そういうものがうじゃうじゃいる」と言われるんです。

それは目に見えて悪さをしませんよ。本当に、じーっとして、本当に仲良く街の中で暮らしている。**それに馴**

染んで、馴染んで・・・ぴったり感覚が馴染んでいくと、聖霊との関係性の『感性と王権を使う』ということに、彼らは、ダメージを与えていきます。

だから、「目立って悪いことをしないからいいだろう」ということではないんですよ。だから私、空き部屋に入ったら、そういう諸々の霊がいるのを感じるけれど、いちいち悪霊がいるからと言って、相手にして「さあ、お前たち出て行け」と言ってやるかという、やりません。

なぜならば、私が入って、その工事が2、3日、あるいは1週間位、続くわけですよ。何回も出入りして行くうちに、本当にいなくなっていくます。勝手にいなくなっていくます。「こいつをからかっても仕方がねえ」と思うんでしょう。だから、敢えて「出て行け」とは、言いません。

それから、ちょっと重いちょっかいを出してくる悪霊に対して、クリスチャンだったら「じゃあ、みんな、祈りましょう。祈ってあげましょう」という話になっていきます。要するに、ミニストリーですね。それはいいんですけど、日本の中で、その王権がくじかれている。濁っているその中でも、「出て行け」と言われれば、出て行きますよ。移動していきますよ。

けど、その人がそのまま、自分の王権の支配を磨かないんだったら、奴らは、また戻ってきます。いつの間にか戻ってきます。そして前よりもきつくなることがあります。

ですから、その人を助けてあげるんだったら、自分と同じように王権が使えるようになるまで、その人と付き合うことです。しっかりと。そうでないと、ただ行って、はい祈ってあげたから、出たから・・・「あっちも出たこっちも出た」と言うけど、それって日本の社会の中でどうですか。その人が『相互内在』を持ち、神との関係性をしっかり打ち立てて、この新品の本の中に入った紙くずである私が、悪霊から見ても、サタンから見ても、「こいつにはかなわねえわ」と思えるようにその人をさせてあげないとね。

厳しいですよ。それを何かミニストリーだという一つの何かのパフォーマンスにしちゃダメ。はい。しっかりその人は王権によって自分を治めて、自分の体を治め、自分の周りのそんな諸々の霊力も治め、従えるように、共になっていかないとね。

そのためには、兄弟姉妹との関係性というのが大切なんです。『命の関係性』が大切なんです。兄弟姉妹の状況に敏感になれるんです。それを、自分の魂的な思いで、兄弟姉妹にちょっかいをかけるんじゃないんですよ。あんたこうだね、ああだねと言って、言いたい人は自分の癖でどんどん言うけど、そうじゃないんです。

その人にある御霊の状況、その人の魂の状況、そのカラーをその人の中に見つける。神様はその人に応じたアダムを造ったんですから。均一に造ってないから。自分と違うからね。

だから、その自分と違うカラーのアダム、神の造られたアダムと私たちは出会って、喜び合えないといけません。その人をなんという人だろうと言って睨むんじゃないで、その人を見て、神に造ったアダムを喜び、楽しむことがないとね。だから、そこに、神の国があるんです。42:53.52

だから、さっき言いました日本で注意したいのは、諸々の悪霊というもののの中に、クリスチャンが通ったらクリスチャンについていく、本当に諸々のどっちつかずの悪霊がいます。クリスチャンがそこにいたら、その人に

5C18 回目キングダムセミナー20260613

も従います。もうそんな感じ。だから、それを治めるということを発揮する。主体的に、我々はさせてもらわないといけない。 43:50.04

そういうのをファミリアスピリットと言うでしょ。それは、どちらかと言えば、もちろん悪霊の領域なんですけど、ファミリアスピリットというのは、その人にべったりついて、その人固有の昔から親しい霊なんです。我々の日本の社会にはそれはもう、うじゃうじゃいるのです。

だから、そのファミリアスピリットと付き合いながら神を礼拝する。ファミリアスピリットを受け入れながら聖霊と交わろうとする。で、そんな不十分なものは、何が問題かという、キリストとの相互内在の実態というものを、しっかり自分で分かって認識して、リアルにしていけないから、もう、その人自身が、どっちつかずになるんです。

だから、周りに起こってきた現象ばかりを目に留めて、「あ、これが起こったから、・・・。」「これがこうなったから・・・。」「こうだったから、そしたら、聖霊様が来たら、これを起こしてくれる」「こう祈ったから、こうなってくれた」という現象ばかりを追いかけるものになっていくんです。

そしたら、諸々の悪霊やファミリアスピリットにとっては、持ってこいなんです。もう、どんどん、どんどんその人の近くでいろんなことを起こしてやったら、その人は注目してくれるから。

あんまりこれを言うと、諸々の悪霊やファミリアスピリットを、今日家に帰ったら、もうビリビリとそればかりを気にしてしまう。それを言っているんじゃないんですよ。 46:32.16

それらを、寄せつけない私たちは、『その主体にされたんだ』ということ言いたいんですよ。虫眼鏡でファミリアスピリットを探すようことがありませんように。もう、そんなのは、私たちがあるべき姿に、しっかり立っていれば、何ら恐れることはありません。

『神の王権』を与えられて、その王権で私たちは管理する・治めていくんです。そういう『主体』なんです。

それからもう一つの関係性、治めるものと言えば、『天地万物』です。そして「産物」です。私たちの周りの物体と言われるもの、物理的なもの、工業的なもの、農産物的なもの、もちろん聖書が言っているように動物も含まれています。動物も地を這うものも、地にうじゃうじゃいるものも、そして虫さえも、治めることができる対象でしょう。だから、私たちの身近な工業物、家とか、機械類とか、車とか自転車もそう。電車もそう。よく乗る人は飛行機もそう。ジェット機も。みんな私たちはそれを治める。それを祝福するんです。それを聖めることができるんです。

目に見えた泥汚れは気にするけれどね。霊的な汚れは気にしないという人がいっぱいいるわけですよ。でしょ。だから、その物体についた霊的な汚れっていうものはしっかり治め聖め、取り払って使うべきでしょう。だから、いつも私、車で行くとき、ボンネットの角にちょっと手を置いて、乗ります。心の中で「頑張っていこうね」と。家に帰ったら、また同じように「ありがとうね」と言って。「また今度洗うからね」って。祝福します。そういうことでしょう。 48:48.13

5C18 回目キングダムセミナー20260613

神に造られた万物・人間が造った万物を私たちは『**聖める王権**』があります。で、**正しい霊と正しい信仰、『イエスの信仰』**で神の国のために使われる物質にいきましょう。

自分の家を聖めていますか？そして自分の食べるものも。イエス様は食べ物を持ち上げてそれを祝福された。聖めたんです。我々の体の中に入れるものですから、「神様、感謝します。この食事を・・・」と言うのは素晴らしいことです。けれども、それと同時に、「この今日の晩御飯を聖めます。祝福します。私の体に最も栄養になるように聖めます」と言ってやっているんです。

だから、そういうふうになんか、**神の民が、そこに長けていくことです**。それをね、別に人と比べる必要はないんですよ。あの人できるな、この人・・・だと、そんなことばかりぐじゃぐじゃ考えてしまう。そうじゃないんです。**自分と主と、聖霊との中で、しっかり喜んでするんですよ**。それが何か規則や決まりや律法になったらダメです。それが一つのしきたりみたいになつては、ダメです。**自分の内から湧き上がって、ウキウキと喜んで、それが発揮できるようになることですよ。50:47.72**

善悪の木の実を取って食べるとき、関係性は死ぬんです。ところが、命の木の実で食べるとき、全ての関係性は生きるんです。命って何ですか？聖霊から湧き上がってくるワクワク命なんです。51:19.32

神様はこの関係性というものを、我々の今日という日を、今というこの永遠の今にリアルに置いてくださっています。それを今日始めることによって、この救いのスタートは、完成に向かっていくんです。実質ね、私たちの付き合いも完成に向かっていくんですよ。定期的に決まった日に会えるわけではないけれども、会える時に聖霊の高まりを持って、自分も高められて、関係性を持って進めていきましょう。

はい、時間が参りましたので終わります。幅広く込み入ったことも話しましたので、もし何かお話になりたいことやお聞きになりたいことがあったら、どうぞいつでも電話、あるいはラインで連絡をしてください。

先月から今日までもいろんな人と会話することができました。感謝します。それが御国の焦点にあって、しっかりした語らいや付き合いであればと心から願っています。はい、皆さんを祝福します。

賛美：主の祝された命のことば